



Emergency Watch NO. 45 Sep, 2014



神戸こども初期急病センター 2014年8月受診者数：1799人



訴え

1. 発熱 : 1025人 (772人)
2. 咳嗽 : 542人 (163人)
3. 鼻汁 : 368人 (15人)
4. 腹痛 : 236人 (125人)
5. 発疹 : 230人 (187人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 523人
2. 感染性胃腸炎 : 262人
3. じんま疹 : 98人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 86人
5. 感冒 : 78人

☆ 今月のワンポイント ☆

夏休みも終わりましたがみなさまいかがお過ごしでしょうか？今年は何年と比較して過ごしやすい日が続いています。そろそろ季節の変わり目が近づいてきているようですので、体調など崩さないようにお気を付けください。

神戸こども初期急病センターの8月の総受診者数は1,799人でした。受診された主な理由は発熱(772人)、咳嗽(163人)の順で、病気としては上気道炎(かぜ)が最も多く523人、次いで感染性胃腸炎262人となっていました。

さて、今回は昨今テレビなどで話題になっているデング熱についてお話しします。デング熱はデングウイルスの感染による病気で、発熱、頭痛、筋肉痛、発疹などが主な症状です。患者さんによっては「眼の裏の痛み」を訴えることがあります。潜伏期間は3-7日程度です。デング熱は伝染病の一つで、蚊による媒介で伝染します。媒介する主な蚊は「ネッタイシマカ(日本には生息していません)」「ヒトスジシマカ(日本でも青森県以南に生息しています)」です。デング熱にかかっている患者さんを刺した蚊が、別の人を刺すことによって伝染します。「ヒトからヒト」へ感染することはありません。特別な治療法はなく、点滴や解熱鎮痛剤などの対症療法を行います。ほとんどの患者さんは2-7日程度の発熱後に治癒します。ごくまれに「デング出血熱」という血が止まりにくくなる病気になることがありますので、解熱鎮痛剤のうち「アスピリン」は使用しないようにしてください(市販薬バファリンのうち、バファリンAがこれを含みます)。小児でよく使用するアセトアミノフェン(商品名:カロナール、アンヒバ、アルピニーなど)は大丈夫といわれています。

9月3日現在、2014年は日本では熱帯地方を訪れた方か、代々木公園周辺を訪問した方のみ発症しています。もし代々木公園周辺を訪れた1-2週間後に熱が出た場合は注意が必要です。また、上記のようにデング熱の患者さんを刺した蚊に刺されるとデング熱を発症する可能性はありますので、蚊に刺されないようにする注意が必要です。日中に野外で活動するときは虫よけスプレーや長袖長ズボンの着用が推奨されています。ただし蚊は10月になると活動をやめてしまい来年まで持ち越すことはありませんし、またヒトからヒトへは伝染しませんので過度に心配する必要はありません。「熱がなかなか下がらない」「熱があつて鼻血がとまらない、歯肉から血が出る」などの場合は早めに医療機関を受診しましょう。

